

花鳥風月・短歌

フレイル期へ入った証腰捻る

カクンと折れてへたり込むなり

徳永 誠一

「さようなら」かわいい声にふりむけば

下校の子らが手を振り帰る

佐伯 定則

今日も又赤ちゃん部屋が大きなわぎ

泣いて笑って又シッコ出た

夏と秋行ったり来たり日本は

四季に恵まれゆたかな季節

日本は負けてカブトの尾をしめた

両手広げて笑顔の中間

一色 ノブ

太陽と遊ぶ山鳥落葉中

色どりの中たのしむ番

塗塀
良子

伐採を免れし柚子狩り終えて

冬至に備え友に振るまう

小林
泰子

お出かけや小春日和の心地良し

石鎚の初冠雪に手を合わす

石井
トシ子

二人してあじさいの花見に行こう

リハビリの足あるけるうちに

土曜日はリハビリ休み老夫婦

明日の料理の準備楽しむ

曾我部
福石